

東日本大震災の脅威

先日、東日本大震災から一〇年が経過し、テレビでは連日震災について報道されています。あの悲劇を忘れないようにし、今後の教訓とするため起こったことをまとめました。

二〇一一年三月十一日十四時四十六分、三陸沖の宮城県牡鹿半島の南東百三十キロメートル付近の深さ二十四キロメートルを震源とし、マグニチュード9.1という日本国内観測史上最大規模の地震が発生しました。この地震では震災から3か月時点で死者一五〇〇〇人、行方不明者七五〇〇人、負傷者五四〇〇人、避難所生活者一二五〇〇人も被害が起きています。

この震災の恐ろしいところは本震だけではありません。その後強い揺れを伴う余震が多数発生しており、五月三十一日までは百六十八回も発生しています。さらに、この震災では巨大な津波も発生しました。その中には高さ九メートルを超えるものもあり、浸水面積の合計は五百六十一平方キロメートルにも及びました。

この震災で変わったこともあります。身近な例では皆さんも使用しているLINEというサービスが開始されたことなどがあります。皆さんもこれを機に自分には何ができるのかを考えてみましょう。(3年 F)

参考：内閣府 防災情報のページ「東日本大震災」

油断禁物 春一番!

三月は季節が春へと移り変わっていく時期です。春の訪れを示す言葉の一つに「春一番」という語を聞いたことがある人は多いのではないのでしょうか。

今回はその春一番とそれに対する備えについて紹介します。

春一番とは、気象庁によると「冬から春への移行期に初めて吹く、暖かく強い南寄りの風」のことです。その強風による被害は例年発生しており、私たちもその危険を知っておく必要があります。

強風による被害の中でも、「歩行中等にバランスを崩す」「ドア、扉に挟まれる」といったことが原因でケガにつながる人が多いです。時には車のような乗り物が転倒することもあります。

そんな危険な春一番などの強風時の外出は次の二点に注意するようにしましょう。強風時、ドア付近は指や四肢が挟まれることが多く危険です。ドアノブ等をしっかり持って十分に注意しましょう。また、物が風で飛ばされるようにしっかりと固定しておくことが大切です。このようなことを気にかけて、無事にこの春を乗り切りましょう。(4年 I)

参考：東京消防庁「春一番!突風に注意!」三井住友海上「春一番が引き起こす意外な事故と対策」

ビル9階の開けていたサッシが強風を受け、急激に開放した車掌でガラスが割れ、屋外に飛散した状況



〈東京消防庁より〉

災害時の応急手当て

ある日、大災害が発生。避難をしている途中で、道端に意識を失い倒れている人がいました…。このような場合、私たちはどのように対処すれば良いのでしょうか。正しい知識を持ち、正しく対処すれば救えるかもしれない命があります。この記事では、災害時の正しい手当てを紹介します。

災害時には、情報通信手段が途絶えて救急車を呼べなかったり、多くの傷病者の発生により救急隊の到着が遅れたり、医療機関の麻痺により全ての傷病者への処置が困難になったりする可能性があります。そして何より、東京消防庁の管轄区域の人口は、二〇一九年四月時点で約一三六五万人。それに対して、救急隊員は三千八百人。保有している救急車の台数は、二〇一八年時点で二五八台と発表されています。昼間・夜間の人口差を踏まえて計算すると、東京で約五万人に対して割り当てられる救急車の台数は1台以下となります。これらのことから、災害時は「自助」を基本にした行動を取ることが大切です。

応急手当ての主な目的は、救命、傷病の悪化防止、苦痛の軽減の三点です。もしその場に居合わせた人が心肺蘇生やAEDなどの応急手当てを行った場合、手当てをしなかった場合に比べて、救命の可能性はおよそ2倍になります。救命のチャンスを高めるため、勇気を出して、応急手当てを積極的に行いましょう。目の前に倒れている人がいたら、これらの手順にしたがって手当てを行います。

- ① 倒れている人の周囲の安全確保を行う。
- ② 軽く肩をたたきながら「大丈夫ですか?」と声をかけ、倒れている人の反応を確認する。
- ③ 反応がない場合は呼吸を確認する。
- ④ 呼吸がないまたはしゃくりあげるような不自然な呼吸の場合は、「人が倒れました! 誰か来てください!」など大声を出して、周囲に協力を求める。心肺蘇生法の知識がある場合は速やかに実施する。

個人が自助について学ぶことは、災害時にとても役に立ちます。ここで紹介した応急手当てはとても重要なものなので、必ず覚えておくようにしましょう。(2年 S, N)
参考：ソフトバンクニュース「災害時、目の前に人が…。あなたが取るべき行動は?」